

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

退任の弁「会長・校長この10年」

鞭木 由行

10年前の2006年、私はそれまで16年間奉仕した教会から一年間のサヴァティカルを与えられ、母校であるリヴァプール大学に特別研究員としてもどり、研究生活を送っておりました。それは、私の奉仕の生涯の中で最も幸いな一年間でした。12月のクリスマスも迫る頃、聖書宣教会の責任役員会から一時帰国の要請があり、日本に戻りました。本人が不在のまま代表役員として選出するより、本人が出席するなかで選出した方がよいとの判断からでした。それまで遠藤嘉信先生が病を押して責任役員会の代表役員代行を務めておりましたが、この時の決議により私が代表役員に選出され、それから聖書宣教会会長としての働きが始まりました。実は、リヴァプール大学へ行く前に、前任者からの懇願を断り切れず、帰国したらお引き受けすることになっていたのです。幸いにも、この時の一時帰国で癌の末期であったある女性を訪問して、信仰の決心へと導くことができたのは、神様からの嬉しいご褒美でした。その後一旦帰英し、研究にひと段落付けて、翌年3月に帰国し、牧会と並行して、聖書宣教会の会長としての働きが始まりました。木曜日は早朝6時半に家を出て、丸二日間教師として教え、午後は運営上の事務やモリヤ問題の処理に追われ、会長としての職務を果たして帰宅すると金曜日の夜でした。担当する科目も次々と増え、前日の水曜日や月曜日を授業の準備に費やし、もはや牧会が十分に行えない状況となっていきました。一年間フルサポートでサヴァティカルを与えてくださった教会に申し訳ないと思いつつ、2年後に牧会を辞しました。同時期に、聖書宣教会も規約の変更に基づき会長を理事長と校長とに分離することが決まり、その年から校長として奉仕することになりました。そして、8年が経過したわけです。在任中、何で私がこんなことをしているのだろうか？と自問したことは数えきれません。私が会長や校長になるはずなど全くなかったのです。

留学から帰国しても、7年間は、聖書宣教会に関わることはありませんでした。8年目にアラム語の授業を依頼され、恐る恐る教え始めたのです。当初は教師会に出ることもなく、授業が終わるとサッと逃げるように帰宅していましたが、次第に科目数が増え、教師会にも出席するようになって暫くすると、モリヤ問題が公表されました。無知だった私にとって、唯驚愕の一語でした。その後色々あり、一番距離を置いていたはずの私が、気が付いたときには、何と聖書宣教会の中心に座っていたのです。一つ一つ主の導きを祈り求めてきたつもりですが、振り返って思うことは、やはり何でこんな事になってしまったのだろうかという疑問です。全く予想外の、迷路に入り込んだような行路でした。到底担うことのできない重い責任を何とかここまで担うことができたのは、唯々主の憐れみだったと思っています。そして、神様はこの責任を10年間果たすためにすばらしい仲間を備えてくださいました。教務には強力な助っ人・マックマンの宮井兄、決して人を疲れさせない庶務・司書の中川姉、経理堪能な倉嶋兄、さらに厨房にはイタリアン・シェフ兼サックス奏者の成宮兄、そして誰よりも同僚の赤坂泉先生にどれほど助けられて来たことでしょうか。4月からは校長に就任される赤坂先生をサポートする立場で、サポートはできないのでせめて邪魔をしないように、特任教師としてもう暫く働きを続けて行くつもりです。これまでお祈りくださった皆様にも心から感謝いたします。次期校長の赤坂泉先生のために、また次の専任教師が早急に与えられるように、続けてお祈りください。深謝しつつ。



講師として奉仕して下さっています

わたべ

渡部 和彦

(水戸下市キリスト教会牧師)

教会教育学を担当して二年、なぜ自分が聖書神学舎で教えているのかという不思議と恐れに、慣れも加わり、良い緊張感を覚えています。クラスでは、やわらかな和やかさのうちに、鋭さともやもやがあります。研修生の、職業を投げ打ってやがての働きに備えての真剣さと、みことばに取り組み、みおしえを何とか吸収し、飲み込もうとするもがきです。

キリストは、ある人を牧師また教師としてお立てになりました。この私をも指差してかと思うと、恐れと驚くべき主の恵みを思います。私自身が祈っていかねばならないとともに、多くの方々を祈りを必要としています。ちりにすぎず、汚れの中にある者をも用いられる主を仰ぎながら、かつて教員をしていた時の上司が口にしていた、あいさつのように、枕詞のように感じていた言葉が、今は真実をもって迫るのを感じつつ、自分も口にします。「至りませんで。」

たかみち

野村 天路

(生田丘の上キリスト教会牧師)

今年度から教理史と弁証論Iを担当しております野村と申します。教理史では、古代信条の成立過程を学んでいます。クラスを通して、信条や教理は、単に純粋な神学議論から生まれてきただけでなく、現実の歴史の中に生きる信仰者たちの告白として生み出されたという理解を深めていきたいと思っています。また、弁証論では、信仰に関する疑問にどのように答えるかということを考えます。信仰の疑問にどう答えるかということ是非常に実践的な問題ですが、この背後には、信仰を知的に説明するとはどういうことかという根本的な問いがあります。神学的な問いと実践とを結びつけるような学びになることを願いつつクラスに取り組んでいます。

自分が研修生のときには、気楽なもので、質問ばかりしていました。ところが、今や質問を受ける立場です。自分自身が忍耐され教えられてきたということを感じつつ、クラスに向き合っていきたいです。

若井 和生

(飯能キリスト聖園教会牧師)

今から12年程前の聖書神学舎で卒論「柏木義円の終末論」に取り組みました。その際、当時の教師会が高額な『上毛教界月報・復刻版』を購入して下さり大変感動しました。四年生の夏休みに図書館に缶詰めになって、朝から晩まで『上毛教界月報』を読みふけたのが当時のよき思い出です。

その後岩手の教会に遣わされましたが、牧会・伝道の傍ら、岩手や東北のキリスト教史を少しずつ調べるようにしました。2011年には岩手にて東日本大震災を経験。「3.11いわて教会ネットワーク」の一員として、支援活動にも取り組みました。

昨年、埼玉県教会に導かれましたが、週に一度神学舎の研修生たちと共に「教会史」を学んでいます。歴史を貫く主の働きの展開を学びながら、目の前の事柄を歴史的にとらえる視点を養いたいと思っています。

ただし

神田 唯志

(武蔵台キリスト福音教会牧師)

入会から10年目、今度は教壇に立つ側となり、忘れかけていた学び舎での生活を思い起こしながら過ごしています。私の在学中に、遠藤嘉信先生、岳藤豪希先生、舟喜信先生、ヘンリー綾部先生が、卒業間もなく舟喜順一先生が召天されました。これらの先生方から直接教えを受けたこともなく、ご指導いただいた先生方も多くは学び舎を離れておられます。奉仕の依頼を受けた時、当然のことながら、もっとふさわしい方がおられるだろうと思いました。断る方法を考えていたところ、ある出来事から神さまの本気を見せられた気がして、お受けした次第です。

実は、学舎の応接室前の書は、書道の恩師の作品で、図書館にある綾部先生の新約釈義の手引きは、父がガリ版で印刷したものです。私はここで何を残すのか？主のご計画の中で手渡された聖書信仰というバトンを、しっかり引き継いで行きたいと願わされています。

2017年度 聖書宣教会講座案内

2017年度は次のようなプログラム、講座を予定しています。11月4日（土）のオープンデイを始め、聖書講座、教会合唱講座はどなたでも参加できます（オープンデイ以外は要申込）。お待ちしております。

聖書講座（金曜日10:30~12:10）

前期：「『聖書考古学』—神のことばの確かであることを求めて（旧約聖書編）」（飯島 勅）
4月14日~9月29日（15回）
於 ぶどうの樹キリスト教会（四ッ谷）
後期：「『聖書考古学』—神のことばの確かであることを求めて（新約聖書編）」（飯島 勅）
10月~3月（15回）

教会合唱講座（火曜日18:30~20:30）

前期：「賛美：礼拝、聖書、会衆、聖歌隊、奏楽-11」（飯島 千雅子）
4月18日~10月17日（9回）
於 浜田山キリスト教会
後期：10月~3月（9回）

第42回 夏期研修講座

期間：7月10日（月）~12日（水）
会場：奥多摩福音の家
対象：牧会者とその配偶者
テーマ：「新約聖書における旧約聖書引用」
新約聖書における旧約聖書引用は、私たちが理解しているようで実は結構難解な事柄の一つでしょう。旧約テキストと比べての引用テキストの問題、また新約著者の引用の意図は何なのかといった解釈学的な問題。ここ二十年來の新約学におけるホットな問題であり続けますが、最近では福音主義内においてその理解に相違が生まれてくるようになりました。旧約・新約それぞれのテキストに返りつつ、この問題について取り組みたいと考えています。ご参加をお待ちしています。
講師：聖書宣教会教師・講師
詳細：別紙案内、ウェブサイトをご覧ください。

第33回 教会音楽夏期講習会

期間：7月26日（水）~28日（金）
会場：聖書宣教会（宿泊は近隣の「玉川苑」）
対象：聖歌隊員、聖歌隊指導者、奏楽者、独唱者等、礼拝や教会の諸集会で音楽の奉仕に携わっている方、および奉仕の準備をしたい方。牧会者・教職者・信徒の方も参加できます。
「みことばと音楽」—賛美—
人知をはるかに越えた神を、私たちのことばをもって告白し、ほめたたえることに招かれている幸いを感謝します。みことばの学びを通して神に近づき、賛美のことばと奉仕の心を整える学びの機会です。教会音楽奉仕者としての実際的な訓練を受ける講習会でもあります。整えられた礼拝者、奉仕者が、一層豊かな務めへと遣わされ、諸教会の礼拝と賛美がいよいよ祝福されることを祈ります。ご参加をお待ちしています。
講師：聖書宣教会教師・講師
詳細：別紙案内、ウェブサイトをご覧ください。

（このほか、聴講制度があります。詳細は事務局まで）

2017年度 聖書宣教会主要年間予定

2017年

4月 4日（火）	入会式
4月 7日（金）	前期授業開始
5月18日（木）	祈りの日
6月 3日（土）	教会音楽のひととき
6月 6日（火）~ 6月 7日（水）	特別講義
6月30日（金）~ 7月 6日（木）	集中講義
7月 7日（金）~ 8月27日（日）	夏期調整期間
7月10日（月）~ 7月12日（水）	夏期研修講座
7月中旬~	キャラバン伝道
7月26日（水）~ 7月28日（金）	教会音楽夏期講習会
8月30日（水）	前期授業再開
10月 5日（木）	前期授業終了
10月 6日（金）~10月18日（水）	秋期調整期間

10月10日（火）~10月11日（水）	リトリート
10月19日（木）	後期授業開始
11月 4日（土）	オープンデイ
11月15日（水）	祈りの日
11月25日（土）	賛美礼拝
12月 9日（土）~ 1月 5日（金）	クリスマス調整期間

2018年

1月 6日（土）	後期授業再開
2月 5日（月）	入会試験
2月11日（日）	信教の自由を守る日
3月 7日（水）	後期授業終了
3月 8日（木）	卒論発表会
3月12日（月）	第59回卒業式

編集後記

皆様のお祈り、お支えを感謝しています。人事面でも財務面でも大いに祈られています。また、主の不思議を見せられてもいます。この国、この時代の上にも主のご主権が力をもって臨むことを信じ、祈りに

おいても言動においても、地の塩、世の光としての務めを正しく理解し、的確に取り組みたいと思います。諸教会を、主が強め祝して下さいますように。(A)